

いきいきエデュケーター⑤

— 子育て・孫育て・自分育ち —

くだけけ会代表

和田 重良



なめらかな あいさつ

ぼくは子どもの頃から「あいさつ」がどうも苦手で、お友達が立派な決まり文句をスラスラと言うのを見るにつけ、「どうしてぼくは、それが言えないんだろう」と劣等感を抱いていました。

大人になってからもどうにも苦手意識は克服できません。上手にあいさつはできないのです。

あいつはしつこい子もたくさんいる

ぼくの知っている限りでも、子どもにも大人にもあい

さつが苦手な人は結構いるものなのです。

それがために、「社会性がない」とか「人付き合いがヘタ」とか思っているのです。なんとなく引っ込み思案とさえ思われるのです。ところが、あいさつ以外は普通に積極的に話せるという人もいます。

でも、どうしても「あいさつしなさい」という社会常識につぶされて、「あいさつできない子はよくない性格」というふうに分身にレッテルを貼ってしまい、益々あいさつがなめらかに出来なくなってしまうのです。

あいさつの意味

そういう人に朗報があります。

実は、あいさつってというのは「しなきゃならない」というものではなくて、あいさつすると人と自分との関係がとてなめらかになるといふものなのです。

ですから、決まり切ったあいさつというのは、まずあまり深く考えなくてもできるように工夫して作られてい

- 2 -

ます。だから時には形ばかりの心のこもらないものになったりします。本当は、決まったあいさつより、気楽なあいさつの方がいいのです。でも、目上の人やエライ人相手に気楽なあいさつはできないし、つつい口の中にモニヨモニヨとごまかしてしまうのです。

でも、モニヨモニヨでもいいのです。何も言わないよりは。

心のこもらないあいさつより恥ずかしがってゴニヨゴニヨの方が伝わるものもあるってものなのです。

できればちよつと大きめの声で…。

そのコツは「お相手の気持ち心地よくなるのには何を言ってあげたらよいのか」です。そうするとそこに、自分もお相手やみなさんといっしょに生きているんだという実感がわいてきます。

「お先に」「すみません」「ありがとうございます」「ごめんください」「ご苦労様です」等々。

自分の方の気恥ずかしさもありますが、なめらかさの

ために、こんな言葉を気楽に口に出してみるのです。

「おはよう…」「おやすみなさい」「こんにちは」「さようなら」たったこれだけで心の壁が取り外せるのなら、とつてもいいですね。自分をどう見られているのかというちよつとした心のブレーキも段々と外されていくのです。

恥ずかしがり屋さんのよさもたくさんありますから安心してゴニヨゴニヨ、モニヨモニヨからでいいから始めてみて下さい。

— 口メモ —

中身の無い表向きなあいさつより
ヘタでもお互いが楽になるあいさつから
はじめます。

どこかに、そうしたい気持ちは
あるのですから。

- 3 -